

中国の地形図, 地質図, 地名事典, 地質用語辞典の紹介

河内洋佑¹⁾

地球上の陸地総面積の7%強を占め, ほとんどあらゆるタイプの岩石, あらゆる時代の岩石や化石を産する中国地質の理解は今後ますます重要になるであろう。ところが, 中国の詳しい地形図, 地質図はなかなか入手しにくく, 漢字で示されている地名の中国語での読み方も分からないばかりが少なくない(少数民族地域の地名は漢字の当て字が使われているので, 普通の中国音とは異なる読み方をしている場合がある)。われわれに近づきやすい英語で発表されている論文の地名は, 言うまでもなく中国語の発音にもとづいてピンインによるローマ字でつぶられているため, 漢字でどのように書くのかは一般に不明である。そのため, それがどこにあるのかも分からないことが多い。しかし, これらは日本の読者にとってはどうしても知りたい情報である。そこで, このような情報を得るのに役立つと思われる文献を, 中国での4年間の経験をもとに紹介したい。これらの文献は恐らく日本の図書輸入業者を通じて注文入手できるであろう(ただし値段は時によっては十倍以上になっていることがある)(注1)。また問題は中国での出版事情のため, 売り切れた図書の再版は何時になるかわからないので, 入手できるものはそのときに買わないと二度と手に入らないことが多いという問題もある。中国での古書市場は非常に限られており, 売り切れたものを古書市場であさることは, 特に地質学関係などでは不可能に近い。

地形図。5万分の1や10万分の1の地形図は国家機密とされているため, 入手はおろか通常では見せてもらえない。地形図には通し番号がふられていて, 調査に際してリーダーとなる中国人研究者がしかるべき機関から借り出してフィールドに持参するのであるが, 借用した者は地形図を中国人を合

む他人に見せたり, 貸したり, コピーさせたり, なくしたりしてはいけないという注意書きが印刷されている(なくしてもいけないそうであるが, どうやってなくさないで済むのかはミステリーである)。したがってある地域について地形図が出版されているかどうか, 中国人の地質家でも詳しいことは分からない。ただし, 私の経験では非常な遠隔地を除き, どうやらほとんど全国をカバーする上記のスケールでの地形図が発行されているらしい。垣間見た限りではこれらの地形図は3色刷りで, 何度か改定も行われており, 等高線は間隔10m, その引き方も正確で, 細部にわたって正確である。5万分の1地形図では1枚で東西15分, 南北10分のエリアをカバーしている。1km間隔のUTMグリッド線も入っている。しかし, 中国では地名や境界の変更がしばしばあるので, 実際の場所の特定が困難な場合があり得る。(たとえば北京は過去50年間だけでも時代によってペキン, ペーピン, ベイジンと変化した)。また中国の辺境では現地人に地名を尋ねても, 川の対岸で見えている場所なのに名前を知らないなどということも経験した。また少数民族自治区などでは漢名と少数民族語による地名の両者が併用されていたり, その地名が一部省略して使われていたりすることが多く, 事情を知らない外部の人間は非常に混乱する。

5万および10万分の1の旧ソ連製で, アメリカ発行の地形図が日本でも入手できる(注2)。ソ連製の地形図の地形表現はかなり正確であるが, 地名はロシア語で表示されているので, ロシア語で発音を知り, さらに漢字での表記を推定しなければならない。しかも地名が古く, 現在使用されている地名とは異なっていることが多い。10万分の1では, ひとまず2kmのUTMグリッドが引かれている。1枚

1) 中国鉱物資源探査研究センター(2001年8月末まで):
中華人民共和国北京市大屯路甲11号

キーワード: 中国, 地形図, 地質図, 地名辞典, 地質用語辞典

の地形図に含まれている範囲は東西30分、南北20分で、等高線は20m間隔である。中国製の地形図と旧ソ連製の地形図では座標系の原点が異なるためか、緯度経度ではほとんど違わないが、標高はかなり異なっていることを経験した。

私たちの調査では公式には旧ソ連の地形図しか使用できなかったのも、露頭位置などは携帯GPSで現地でも測定し記録した。これは後になって詳しい地形図が入手できたらGPSによる緯度経度を用いて位置を記入しようと思ったからである。しかし残念ながらもともと軍事用に開発されたGPSは民生用には精度が故意に落とされていたため、実際にプロットしようとするると数百mもずれており、実用にならないことも多かった。2000年5月にこの精度に関する制約が解除された。しかし、それ以降も測定値が必ずしも地形と一致しなかったのも、三角点や明瞭な山頂などを基準にし、そこから露頭での測定値に基づいて位置を計算で求めてプロットすることになった。(2001年には従来よりも格段に精度のよい携帯用GPSが市販されるそうであるから、GPS測定値だけに基づいたルートマップができるようになるかもしれない。)

以上のように中国製の5万分の1、10万分の1などの大縮尺地形図は入手できない。旧ソ連製の地図は入手しても実用上いろいろ問題がある。しかし、20万分の1程度になると、市や地方程度の地域をカバーする等高線の入った地形図が入手できることがある。ただし、カタログはないので、そのような地形図があるかどうかは現地に行って新華書店(ほとんどの都市で中心部に支店がある)などで調べるしかない。運がよければ入手できるであろう。

都市については数千分の1程度の大縮尺の地図がある。しかしこれらには縮尺もなく、方位も示されておらず、等高線もないので、地質調査などの目的には全く役に立たない。

地図集。小縮尺であり、かつ高価であるが、現在もっとも詳細な地形図で入手可能なのは、ナショナル・アトラスの一環として出版された「中華人民共和国国家普通地図集」であろう。これは中国地図出版社1995年刊で、国家地図編纂委員会による権威の高いものである。34.3cm×50.7cmの大判で多色刷り、紙質もよく重い(ただし重量に比べて製本があまりよくないので、私の持っているものは表紙

がとれかけてしまっている)。180葉の地形図が中国全部をカバーしている。地名索引は99ページあり、4万余の地名を漢字およびピンインで示し、さらに緯度経度も示している。省や自治区地形図の縮尺は150万分の1から420万分の1であるが、大都市は5,000分の1から75,000分の1で示している。定価は580元(約7,500円)であるが、日本の書店を通じて輸入した場合の費用はわからない。

もっとハンディな地形図集としてはA4版の「中華人民共和国地図集」が同じく中国地図出版社から1996年に出版された(第2版)。これは多色刷り78葉の地図に省、自治区、都市などを示している。縮尺は165万分の1から727万分の1である。地名は漢字のみである。定価は90元。索引はついていないが、別に「中国地名録」(中国地図出版社、定価35元)という本がでており、この地図に載っているおよそ2万の地名を漢字、ピンイン、緯度経度とともに収録している。

中国地名のアルファベット表記として、以前は古い表記法であるウェード・ジャイルズ綴りを使っていた。古い英語の論文ではこの表記法を用いているので、現在の地名と対照するのは困難である。20年ほど前にアメリカ国防省ではウェード・ジャイルズ綴りとピンイン綴りの対照表を出版している。この本は厚さ10cm近くもあるが、使用目的を記して申し込めば無料で入手できた(数年前ある人が試みたらまだ在庫があったそうである)。ただしこの本には漢字表記がついていない。しかし緯度経度が載っているので、中国刊の別の地図を用いて緯度経度から漢字を推定すると良いだろう。ただ地名が変わっていることもあることに注意する必要がある。

地質図。地質図としてはどうやら全国のかなりの部分をカバーしている20万分の1があるらしい。しかし、これも国家機密で、公式には見せてもらえない。地質図は文革期に作られたものを見たが、当時は地形図もなかったはずと思われる地域であるにもかかわらず、相当精度のよいものが発行されているので、調査はおそらく測量隊同伴で天測によって位置を確定するなどの方法により行われたのではないと思われる。20万分の1のスケールだと、2000年5月以前のGPS測定値でもほとんどピンポイントで実際の地質と一致した。150万分の

1程度の縮尺では省や自治区ごとの図が説明書つきで発行されている(注3)。売りきれていなければ入手できるかもしれない。

地質用語辞典。地質用語については、若干の言葉について石原・張(1982;地質調査所月報第33巻第5号241-249)によって紹介されている。しかし、次のような詳細な辞典が出版されている。

まず「日英漢地質詞典」は中国の地質出版社と日本の東方書店の共同出版で、1996年刊である。名前の如く、日本語で引くと、対応する英語および中国語が示されている前半が1,099ページあり、後半には424ページの英語索引がついている。内容としては約50,000語を収録しており、広義の地質学以外に、地球物理学、地球化学、リモートセンシングなどまで拾っている。中国での定価は120元(約1,600円)である。

「中英日自然科学用語辞典」は柴垣芳太郎編、東方書店刊のもの、中国の世界図書出版公司による復刻(1995年)で、収録語数は約29,000語である。中国では定価69元(約900円)であるが、日本での定価は12,000円だった。ただし日本で売っているものは紙質、製本などがずっとしっかりしている。名前のように、地質学以外にも科学のほとんどの分野を網羅しているが、地質、海洋、地震だけだと約7,000語を収録している。見出し語は中国語で、読みをピンインで示し、英語と日本語の対訳をつけている。世界の有名な科学者の中国語表記が約20ページあり、英語と日本語の索引がついている。

地質関係でもっとも詳しいのは「英漢地質詞典」であろう。地質出版社1993年刊(第2版)で1,170ページ、定価69元。15万語を収録しており、英語とその中国語訳が載っている。この辞書は広義の地質用語を非常に広範に拾っており、大変便利である。この辞書の姉妹篇として「英漢地質詞典中文索

引」が同じ出版社から1995年に出ている。これは中国語から英語を引くようになっているが、英訳については対応する「英漢地質詞典」のページ数が載っていて、そこを参照するようにしかっていないので前者とペアで購入しなければ意味がない。中国語索引は443ページにおよぶ。定価58元である。

以上の図書(前述のように地形図と詳しい地質図は入手できないが)を中国で入手しようとするれば北京のつてを伝って、大きな書店を通じて注文するのがよいであろうかと思われる。日本の書店を通じて注文することは可能であろうが、莫大な費用がかかることを覚悟せねばならないだろう。地質専門用語辞典は中国の一般の書店ではほとんど見かけない。しかし「中英日自然科学用語辞典」だけはどういわけか一般の書店でもよくみかけた。なお地質ではないが、日本で出版された日中辞典・中日辞典や日本語の辞典、漢和辞典の類がいろいろ中国で復刻されており値段は驚くほど安い。中国訪問の機会があったら本屋をのぞいてみるのも面白いのではなからうか。

注1) 日本の書籍を中国で共同出版の形で印刷出版したものは、そのまま日本に輸入することはできない。ここで紹介した書籍で共同出版、復刻などあるものの値段は中国国内で購入する場合だけに適用されるものであることをお断りしておく。

注2) 詳細は次のホームページで見られる。

<http://www.eastview.com/>

5万分の1は1枚145ドル、10万分の1は1枚95ドルする。

注3) 地質出版社刊で中華人民共和国地質鉱産部編、地質専報の1. 区域地質、2. 地層古生物、3. 岩石鉱物地球化学、4. 鉱床与鉱産などがシリーズとして発行されている。

KAWACHI Yosuke (2001): Topographic and geologic maps, gazetteer, and Chinese-English-Japanese dictionaries of geologic terms.

<受付: 2001年1月12日>